



長浜・米川に年越しアユ

長浜市の中心市街地を流れる米川で今年2月、年越ししたアユの群れが確認された。1年で生涯を終えることから「年魚」とも言われるアユが米川の湧水の温かさのため、生き延びたとみられる。川の環境が生んだ新たな「宝」だ。(松本芳孝)



曳山博物館横で見つかった年越しアユ

湧き水温かく

「夏まで」期待

年越しアユは、「長浜まちなか地域づくり連合会」が2月3日に実施したピワマスの稚魚調査で見つかった。曳山博物館(元浜町)の横で4〜5匹、たたら橋(朝日町、北船町)の下で

米川でピワマスの稚魚調査をした参加者。2月3日、長浜市で(いずれも長浜まちなか地域づくり連合会提供)

10〜20匹の群れを確認した。曳山博物館の横では1匹を捕獲した。全長約20センチと琵琶湖のアユに比べると大型だった。

連合会によると、この日は最高気温が9度程度しかない寒さだったが、調査時点の米川の水温は14度あった。県立琵琶湖博物館の特別研究員、藤岡康弘さんは「1年間を通じてほとんど水温が変わらない豊富な湧

水がある米川の環境がアユを年越しさせた」と話す。県内では確認例がない、夏まで生きる越年アユの可能性も示した。

2月24日、3月23日に実施した同様の調査では、アユは見つからなかった。

米川には、漁業権は設定されていない。県の禁漁期間(8月21日〜11月30日)以外は誰でもアユ漁ができる。禁漁期間中でも8月21〜31日はさお釣り、手釣り、手づかみ、タモ網で捕獲はできる。